

令和5年度  
成田市中学生議会  
会議録

令和5年8月22日(火)開会

成田市  
成田市教育委員会

## 目 次

質問一覧（発言順）	．．．．．	2
議事日程	．．．．．	3
出席した中学生議員	．．．．．	4
説明のため出席した者	．．．．．	4
職務のため出席した中学生議会事務局職員	．．．．．	5
開会及び開議の宣告	．．．．．	6
議長選挙	．．．．．	6
市長あいさつ	．．．．．	8
議席の指定	．．．．．	9
会議録署名議員の指名	．．．．．	9
会期の決定	．．．．．	9
代表質問（各校質疑応答）	．．．．．	10
成田高等学校附属中学校	．．．．．	10
下総みどり学園	．．．．．	14
遠山中学校	．．．．．	18
公津の杜中学校	．．．．．	22
久住中学校	．．．．．	25
再開及び議長の交代	．．．．．	29
代表質問（各校質疑応答）	．．．．．	29
西中学校	．．．．．	29
吾妻中学校	．．．．．	33
成田中学校	．．．．．	36
中台中学校	．．．．．	39
大栄みらい学園	．．．．．	42
玉造中学校	．．．．．	45
市長の講評	．．．．．	49
閉会の宣告	．．．．．	50

## 質問一覧（発言順）

1. 成田高等学校附属中学校・・・ 若者が集う魅力的なまちづくりについて
2. 下総みどり学園・・・ 航空機の騒音対策について
3. 遠山中学校・・・ 遠山地域の開発について
4. 公津の杜中学校・・・ 国際理解について
5. 久住中学校・・・ 防災対策について
6. 西中学校・・・ スポーツ施策について
7. 吾妻中学校・・・ 子育て支援策について
8. 成田中学校・・・ 農業問題について
9. 中台中学校・・・ ごみ問題について
10. 大栄みらい学園・・・ 部活動の地域移行について
11. 玉造中学校・・・ 観光施策について

## 議事日程について

このことについて、下記のとおり定めましたので通知します。

成田市中学生議会議長

### 記

#### 議事日程第1号

令和5年8月22日午後1時30分開議

第1 議席の指定

第2 会議録署名議員の指名

第3 会期の決定

第4 代表質問

## 出席した中学生議員（24名）

すずき 鈴木	ゆずか 柚香	議員	成田高等学校 付属中学校2年生	あらい 荒井	りおん 俐音	議員	成田高等学校 付属中学校2年生
たけい 武井	りこ 莉子	議員	下総みどり学園 2年生	しおや 塩谷	たいが 大雅	議員	下総みどり学園 2年生
たけした 竹下	なつお 夏生	議員	遠山中学校 3年生	いけだ 池田	とうま 橙馬	議員	遠山中学校 2年生
おおたけ 大竹	ゆうき 勇輝	議員	公津の杜中学校 3年生	みよかわ 三代川	ひいらぎ 柊	議員	公津の杜中学校 2年生
おおなぎ 大板	ふうか 風香	議員	公津の杜中学校 3年生	あすま 阿須間	みこと 美采	議員	久住中学校 3年生
いわたて 岩館	すばる 澄春	議員	久住中学校 2年生	すずき 鈴木	しずの 寧乃	議員	西中学校 3年生
たなか 田中	ゆうな 裕菜	議員	西中学校 3年生	いとう 伊藤	ひなの ひなの	議員	吾妻中学校 2年生
さいとう 齋藤	りお 莉緒	議員	吾妻中学校 2年生	たていし 立石	ゆい 結衣	議員	成田中学校 3年生
ぶした 武士田	ももこ ももこ	議員	成田中学校 3年生	おかだ 岡田	かない 愛衣	議員	中台中学校 2年生
たなか 田中	ほのか ほのか	議員	中台中学校 2年生	ふじい 藤井	そうた そうた	議員	大栄みらい学園 8年生
たかぎ 高木	あやか 彩夏	議員	大栄みらい学園 8年生	みたに 三谷	たくと 拓翔	議員	大栄みらい学園 8年生
なす 那須	たろう 太郎	議員	玉造中学校 2年生	ぬまた 沼田	ゆうひ 有陽	議員	玉造中学校 2年生

## 説明のため出席した者

市 長	小 泉 一 成	副 市 長	関 根 賢 次
教 育 長	関 川 義 雄	企画政策部長	鬼 澤 正 春
総 務 部 長	野 村 吉 男	財 政 部 長	篠 塚 岳 史
空 港 部 長	石 毛 直 樹	シティプロモーション部長	伊 藤 善 光

市民生活部長	谷平裕美	環境部長	岩沢宏樹
福祉部長	米本文雄	健康こども部長	高橋一夫
経済部長	堀越正宏	土木部長	川崎伸一郎
都市部長	鈴木浩和	秘書課長	菅谷友則
会計管理者	久能広司	水道部長	堀越千里
教育部長	小川雅彦	教育部参事	保立和彦
消防長	青野穰	消防本部次長	松尾芳幸
監査委員局長	瀬尾宜志	農業委員会事務局長	井上裕二

## 職務のため出席した中学生議会事務局職員

市民協働課長	内田啓子	教育指導課長	三村洋一
市民協働課 市民相談室長	森川暁	教育指導課指導主事	中村公治
市民協働課副主査	岩瀬正典	市民協働課副主査	和田麻美
議会事務局副主査	齋藤和輝		

---

---

## 開会及び開議の宣告

〔開始のブザー〕

臨時議長(市民協働課長) 私は、市民協働課長の内田と申します。議長が選出されるまでの間、臨時に議長の職務を行いますので、よろしくお願いいたします。

---

---

## 議長選挙

臨時議長(市民協働課長) これより、議長の選挙を行います。議場の閉鎖を命じます。

〔議場閉鎖〕

ただ今の出席議員数は24名です。中学生議会では、前半と後半でそれぞれ1名の議長に議事進行を行っていただきますので、2名の議長を選出します。投票用紙を配付いたします。

〔投票用紙配付〕

配付漏れはありませんか。

〔各議員より「なし」の発声あり〕

配付漏れなしと認めます。投票箱を改めさせます。

〔投票箱点検〕

異状なしと認めます。念のため申し上げます。投票は単記無記名であります。投票用紙に被選挙人の氏名を記載のうえ、点呼に応じて順次投票を願います。点呼を命じます。

〔点呼〕

〔投票〕

投票漏れはありませんか。

〔各議員より「なし」の発声あり〕

投票漏れなしと認めます。投票を終了いたします。議場の閉鎖を解きます。

〔議場開場〕

これより開票を行います。立会人に下総みどり学園 塩谷大雅議員、遠山中学校 池田橙馬議員を指名いたします。両議員の立ち会いをお願いいたします。

〔開票〕

選挙の結果を報告いたします。

投票総数 24 票、これは、先程の出席議員数に符合しております。

そのうち有効投票 24 票

無効投票 0 票

有効投票中 大栄みらい学園 藤井 颯太 議員 12 票

公津の杜中学校 大竹 勇輝 議員 12 票

以上のとおりでございます。

よって、前半の議長は、大栄みらい学園、藤井颯太議員が、後半の議長は、公津の杜中学校、大竹勇輝議員が当選されました。当選されました藤井颯太議員と大竹勇輝議員が議長におられますので、本席より当選の告知をいたします。

以上をもちまして、私の職務は終了いたしました。ご協力ありがとうございました。ここで議長を交代いたします。藤井颯太議長は、議長席にお着き願います。

〔新議長着席〕

(午後 1 時 38 分)

**議長(藤井颯太議員)** 前半の議長を務めさせていただきます大栄みらい学園 8 年の藤井颯太です。中学生議会の円滑な議事進行に、皆様のご協力をお願いいたします。

本日の出席議員数は、24 名であります。定足数に達しておりますので、これより「令和 5 年度成田市中学生議会」を開会いたします。

(午後 1 時 40 分)

---

## 市長あいさつ

議長（藤井颯太議員） 議事に入る前に、小泉市長のあいさつをお願いいたします。

小泉市長。

〔市長 小泉一成 登壇〕

市長（小泉一成） 本日ここに、「令和5年度 成田市中学生議会」を招集したところ、貴重な夏休みの期間にもかかわらず、中学生の皆さんにご出席をいただき、誠にありがとうございます。

今回で19回目を迎える中学生議会は、開かれた市政の一環として、中学生の皆さんから直接、市政に対する意見や要望をいただき、今後の市政運営に反映していくため開催いたします。

昨年度及び一昨年度は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大を防止するため、参加校を半分にして開催いたしましたが、今年度はコロナ禍前の開催方法に戻して、全校参加とし、市内11の中学校から、24名の中学生議員の皆さんにお集まりいただきました。

こうして中学生議員の皆さんの顔を拝見いたしますと、これから始まる中学生議会に対する、熱い意気込みが伝わってまいります。

この広い議場で、意見を述べることは、緊張するかもしれませんが、将来の成田市、そして日本を担っていく、若い皆さんからの要望や、柔軟な感性から出された意見をお伺いしたいと思いますので、大きな声で、自信をもって発言していただくことをよろしく願いいたします。

そして、市議会の雰囲気を感じながら仲間の中学生議員からの質問や、市からの答弁を聞くことで、市政をより身近なものとして感じ、社会への関心や参画意識を高めてもらう機会にさせていただくことを願っております。

結びに、中学生議会が、皆さんにとりまして、実りの多いものとなりますことをお祈り申し上げ、私からの挨拶とさせていただきます。

（午後1時41分）

---

## 議席の指定

議長（藤井颯太議員） これより、議事日程に入ります。

日程第 1、議席の指定を行います。各議員の議席は、ただ今ご着席の議席を指定いたします。

（午後 1 時 44 分）

---

## 会議録署名議員の指名

議長（藤井颯太議員） 次に、日程第 2、会議録署名議員の指名を行います。

会議録署名議員は、西中学校 田中裕菜議員及び成田中学校 武士田ももこ議員、以上 2 名を指名いたします。

（午後 1 時 44 分）

---

## 会期の決定

議長（藤井颯太議員） 次に、日程第 3、会期の決定を議題といたします。お諮りいたします。今議会の会期は、本日 1 日としたいと思いますが、ご異議ございませんか。

〔各議員より「異議なし」の発声あり〕

議長（藤井颯太議員） ご異議なしと認めます。よって今議会の会期は、本日 1 日とすることに決定しました。

（午後 1 時 44 分）

---

## 代表質問（各校質疑応答）

議長（藤井颯太議員） 次に、日程第4、各中学校からの代表質問を行います。

### 成田高等学校附属中学校

議長（藤井颯太議員） 初めに、成田高等学校附属中学校 鈴木柚香議員及び荒井俐音議員。

〔成田高等学校附属中学校 議員2名 登壇〕

鈴木柚香議員 私は、成田高等学校附属中学校2年の鈴木柚香です。

成田市の若者が集う魅力的なまちづくりについてお伺いいたします。

全国的な人口減少が進む中、「NARITAみらいプラン」によると、成田市の人口は増加すると見込まれています。一方で、14歳以下のいわゆる「年少人口」は増加せず、結果として少子高齢化が進むこととなります。私は、成田市がこれまで以上に魅力的なまちになるためには、「若者」、特に「年少人口」の増加が重要だと考えています。友達や同世代の仲間がたくさんいることで、街や公園などで遊ぶ機会が増え、にぎわいや活力あるまちづくりにつながると考えているからです。また、成田市の未来の担い手としても「年少人口」世代の役割は非常に重要だと考えています。

そこで、「年少人口」の増加に向けた施策についてお伺いいたします。現在、市が行っている子育て世代に向けた様々な支援に加えて、小学生や中学生自身が「成田市に住みたい」と思えるような取り組みが効果的だと考えますが、どのようにお考えでしょうか。市の見解と現在の取り組みについてお聞かせください。

以上で質問を終わります。

議長（藤井颯太議員） 小泉市長。

〔市長 小泉一成 登壇〕

市長(小泉一成) 鈴木柚香議員の年少人口の増加に向けた施策についてのご質問にお答えいたします。

年少人口の推移についてであります。我が国の昨年の出生数は、調査開始以来、初めて80万人を下回るなど、想定を上回るペースで少子化が進んでおり、本市における0歳から14歳までの年少人口につきましても、昭和60年をピークに減少傾向となっております。

少子化の進展による年少人口の減少は、地域社会の活力の低下や現役世代の社会保障費の増加にもつながることから、本市が持続的な発展をとげていくためには、年少人口の増加に向けた施策を積極的に推進することが大変重要であると認識しております。

そこで、本市といたしましては、結婚から妊娠、出産、子育て、教育まで切れ目のない支援体制の充実を図るとともに、経済面や仕事と子育ての両立など、若者や子育て世代が抱えている出産・子育てに関する課題の解決を図り、安心して子どもを産み育てられる環境づくりを進めていく必要があるものと考えております。

まず、少子化が進行している要因の1つとして、未婚化や晩婚化が挙げられておりますことから、本市では結婚における経済的な不安を払拭し、若者世代の結婚の希望を叶える施策といたしまして、婚姻を機に市内で新生活を始める新婚世帯に対し、新居の家賃や引っ越し費用などの一部を補助する結婚新生活支援事業を実施しております。

次に、子育て支援施策といたしまして、公立保育園の大規模改修に合わせて定員の増加を図るとともに、私立保育園や保育園と幼稚園の機能を併せ持つ認定こども園の整備及び、保育士の給与に本市独自の上乗せ補助、いわゆる「なりた手当」を支給し、保育施設の定員の拡大と保育士の処遇改善を行うなど、保育サービスの充実と待機児童解消に向けた取り組みを重点的かつ積極的に進めてまいりました。さらに、妊娠や子育てに対する相談支援体制の充実、そして、給食費及び医療費の経済的負担の軽減を図るなど、妊娠期から子育て期まで切れ目のない支援を行っております。

また、学校教育についての施策といたしまして、市内の公立小・中・義務教育学校に外国人英語講師を配置し、小学1年生から英語教育を推進しているほか、様々な困難を抱える児童生徒や保護者の気持ちに寄り添った支援を専任で行うスクールソーシャルワーカー

ーを配置するとともに、学校の体育館への空調設備の整備や、温かく、おいしい給食を提供するため、親子方式による学校給食共同調理場の整備を進めるなど、子どもたちの学校生活における環境整備を行っております。

そのほか、小中学生の意見を反映させる取り組みといたしまして、子どもの読書活動推進計画や食育推進計画などの市の施策に関する計画策定において、小中学生及び高校生を対象としたアンケート調査を実施しているほか、子どもたちからの要望や提案をもとに、スケートボードパークの整備や公園への遊具設置などを行ってきたところであります。

また、本年4月に施行された「こども基本法」におきましては、子どもに関する施策の実施にあたり、施策の対象となる子どもや当事者などの意見を幅広く聴き、反映させるために、必要な対応を取ることが定められております。国において取りまとめられた、こどもの意見反映に関する調査研究報告書においては、子どもの意見を聴くことで、子どもの状況やニーズをよりの確に踏まえることができ、施策が実効性のあるものになるとともに、自分の意見によって社会に変化をもたらす経験は、自己肯定感や社会の一員としての主体性を高めることにつながるとしております。

本市といたしましても、年少人口の増加に向けた対策として、次の世代の担い手である子どもたちにとって魅力的なまちづくりを進めていくことが必要であると考えておりますことから、子どもに関する政策について、子どものニーズを的確に捉えられるよう、今後も、子どもの意見を聴く機会を設け、多くの小中学生が本市への愛着と誇りを持ち、住みたい、住み続けたいと思える魅力的なまちづくりに取り組んでまいります。

**議長（藤井颯太議員）** 荒井議員。

〔成田高等学校附属中学校 荒井議員 自席で発言〕

**荒井俐音議員** 私は、成田高等学校附属中学校2年の荒井俐音です。

ご答弁ありがとうございます。質問を続けます。

私は、「魅力的なまちづくり」には、多くの市民の理解が必要だと考えます。しかしながら、市民に理解を得るための構想を説明するものには、抽象的なものや、読みにくいものが多いと感じます。

私は、市民の理解を得るために、イラストなどを用いた具体的かつ簡潔な説明が必要だと考えていますが、市としての見解をお答え願います。

**議長（藤井颯太議員）** 鬼澤企画政策部長。

〔鬼澤企画政策部長 鬼澤正春 自席で発言〕

**鬼澤企画政策部長（鬼澤正春）** 荒井侑音議員の市民が理解しやすい構想の説明についてのご質問にお答えいたします。

本市では、市民にとって魅力あるまちをつくるために、まちづくりの最上位計画である「NARITA みらいプラン」をはじめ、医療、福祉、教育、防災など様々な分野の構想や計画などを策定し、各施策を推進しております。

それらの構想などを推進するためには、行政だけではなく、市民の皆様をはじめ、地域や企業、各種団体などが連携・協力していくことが大変重要であることから、策定にあたりましては、市民アンケートや若者世代を対象としたワークショップ、パブリックコメントなどを通じて、まちの主役である市民のニーズを的確に捉え、目標や施策への反映を図るよう努めるとともに、内容につきましても、市民の皆様に理解していただくための「伝え方」が重要であると考えております。

そこで、構想などのとりまとめや各種計画の策定にあたりましては、取り組みや目標を分かりやすく伝えるため、文章を可能な限り具体的で簡潔な表現にするとともに、写真やグラフ、表などを効果的に活用するよう努めておりますが、今後も若い世代をはじめ、より多くの市民の方々に本市のまちづくりを理解していただけるよう、さらなる工夫に努めてまいります。

**議長（藤井颯太議員）** 荒井議員。

〔成田高等学校附属中学校 荒井議員 自席で発言〕

**荒井侑音議員** ご答弁ありがとうございました。成田は、成田山新勝寺を始めとして、千年以上の歴史を持った町です。そんな成田の中心である成田山新勝寺を始めとした、成田表参道にたくさんのお店がありますが、その中でも最近環境に配慮した商品の製造販売や取り組みを行っているお店が多いということをお伺いしました。例えば、酒粕を使った甘酒の提供や、竹細工木工品店で、金属やプラスチック製品の天然素材化、成田の名物で

もあるうなぎ、そのうなぎの骨を使用したおせんべいの製造、販売など様々な環境に配慮した取り組みを行っているお店が多くあります。私は、この成田が10年後も20年後も、そして100年後も多くの人に愛される、そして歴史を刻み続けるまちであってほしいと思います。そんな成田の歴史ある表参道のお店で、環境に配慮した、この成田の未来のために、そして、この地球のために取り組んでいるお店があるとして、それがすごいと思いましたし、そんな風に環境に配慮してどんどんこれからも愛されていくであろうこの成田で生まれ育ったことをとても誇りに思っています。

これで成田高等学校附属中学校からの質問を終わります。

(午後1時59分)

## 下総みどり学園

**議長(藤井颯太議員)** 次に、下総みどり学園 武井莉子議員及び塩谷大雅議員。

〔下総みどり学園 議員2名 登壇〕

**武井莉子議員** 私は、下総みどり学園2年の武井莉子です。

成田市が行っている航空機の騒音対策についてお伺いいたします。先日、私は祖父母の家を訪れました。その際、航空機の騒音がとても気になり、祖父母にこのことについてたずねることにしてみることにしました。すると、祖父母の家は航空機の飛行経路から、ほんの少し外れたところに位置しており、航空機の飛行経路下の地域との補助の差を感じていると話をしていました。私は、飛行経路下の付近にも飛行経路下と同じような補助や支援をもっとした方が良く考えています。また、住民が飛行経路下の範囲、付近を把握し、対策することも大切だと考えます。

そこで、お伺いいたします。現在、成田市では、飛行経路下の地域付近での騒音についてどのように考えているのかお答え願います。

以上で質問を終わります。

**議長(藤井颯太議員)** 小泉市長。

〔市長 小泉一成 登壇〕

市長（小泉一成） 武井莉子議員の航空機の飛行経路下の地域付近での騒音対策についてのご質問にお答えいたします。

成田空港は、世界の 100 以上の都市のみならず、国内の多くの都市とも結ばれている日本の空の表玄関であり、地域と空港との一体的・持続的な発展に向け、着実に歩みを進めているところです。

一方で、大規模な内陸空港であり、航空機の騒音などが空港周辺の生活に及ぼす影響が大きいことから、環境対策をさらに充実させていくことが求められており、騒音対策や地域振興策など、空港周辺にお住まいの皆様へ寄り添った各種施策を推進していくことが必要であると認識しております。

成田空港の周辺地域におきましては、国が定めた法律などにより、航空機騒音の影響の程度に応じて、飛行経路下により近いところから段階的に、移転補償や住宅への防音工事の対象となる範囲が定められており、それぞれの範囲において、本市及び空港会社のほか、成田空港と周辺地域の共生の実現などを目的に設立された共生財団により対策が実施されております。

空港周辺地域の中でも、飛行経路下により近い範囲は、空港会社による移転補償の対象となっており、お住まいの方のご希望により、転居することが可能となっております。

また、移転補償の対象範囲及びその外側の飛行経路下の地域付近で一定の大きさ以上の騒音の影響が見込まれる範囲は、住宅への防音工事の対象となっており、防音ドア・防音サッシの設置や、壁・天井への防音材の施工に加えて、エアコンなどの空調施設の設置と、設置後 10 年以上を経過した場合などに、更新に係る費用の補助を実施しているほか、深夜・早朝における対策として、防音工事の対象範囲の中でも騒音の影響が大きな地域においては、寝室のサッシの内側に樹脂製のサッシを取り付け、窓を二重にする内窓設置工事を実施しております。

さらには、これらの法律で定められた範囲での対策のほか、その外側においても、防音工事を実施する範囲を定め、窓ガラスの交換工事や空調施設の設置及び更新に係る費用の補助を行うことにより、法律による防音工事の対象範囲とその周辺との騒音対策の格差の解消に努めており、法律の枠を超えた、地域の実情に合ったきめ細やかな防音工事も実施

しているところであります。

なお、内窓設置工事をはじめとした防音工事につきましては、西大須賀に、空港会社が設置しております内窓効果体験住宅で遮音効果を体験することができますので、議員におかれましても、是非、体験していただければと思います。

こうした防音工事の推進や工事内容の充実に努めるほか、防音工事を実施した家屋の所有者などに対し、家屋及び空調施設の維持管理に係る補助金の交付や、法律による防音工事の対象範囲における住宅や宅地などの所有者に対し、それらに係る固定資産税・都市計画税の 50 パーセント相当額を最大 30 万円まで補助すること、さらには空港周辺のより広い範囲を対象に、合併浄化槽の設置など、計 12 事業の補助金を通常より 50 パーセント割増ししての補助や、成田ケーブルテレビ施設整備への補助などを行うとともに、空港会社から交付される空港周辺対策交付金を活用し、道路関係、農業関係などの基盤整備を図っているところであります。

また、騒音対策にあたりましては、騒音の発生状況を把握することも重要でありますことから、市内では、本市、千葉県、空港会社がそれぞれ設置した 47 局の航空機騒音測定局により常時監視しており、成田空港周辺地域における航空機騒音の発生状況を把握するとともに、法律による防音工事の対象範囲が正しく設定されているかなどを確認しているところであります。

この騒音の測定結果につきましては、毎月、広報なりたや市のホームページに掲載しているほか、年間の測定結果や航空機の運航状況、飛行コースの監視結果につきましても、市のホームページに公表しております。

成田空港は大規模な内陸空港であるため、空港周辺地域にお住まいの多くの方が、航空機騒音の影響を受けながら生活されておりますことから、その対策をしっかりと推進していかねばなりません。本市といたしましては、今後も住民説明会などの機会を捉えて、防音工事をはじめとする各種補助制度について丁寧に説明することや、広報なりたによる定期的な周知を実施するなどの継続的な取り組みを行うとともに、防音工事が速やかに実施できるよう、引き続き関係機関と協力して騒音地域にお住まいの皆様のご生活環境の保全に努めてまいります。

議長（藤井颯太議員） 塩谷議員。

〔下総みどり学園 塩谷議員 自席で発言〕

塩谷大雅議員 私は、下総みどり学園 2 年の塩谷大雅です。

ご答弁ありがとうございます。質問を続けます。

新型コロナウイルス感染症の影響で、ここ数年、航空機の便数が少なくなりましたが、今年は、新型コロナウイルス感染症が落ち着き、旅行客の増加に伴い、航空機の便数が今まで以上に増加すると考えております。そうすると、今までの騒音対策では十分ではないと思われれます。市として、どのように考えているのか、お答え願います。

議長（藤井颯太議員） 石毛空港部長。

〔空港部長 石毛直樹 自席で発言〕

空港部長（石毛直樹） 塩谷大雅議員の感染症収束後の航空機の増便に伴う騒音対策についてのご質問にお答えします。

成田空港の航空機発着回数は、空港開港以降、順調な航空需要の伸びを背景に増加を続け、新型コロナウイルス感染症の感染拡大前である令和元年度には、過去最高の約 25 万 8 千回となりましたが、世界的な感染症の流行に伴う渡航制限などにより、航空機の需要が大きく減少した令和 2 年度は、約 10 万 6 千回でありました。

しかしながら、現在は、コロナ禍前の 7 割を超えるまで回復してきており、空港会社によりますと、本年度は 24 万回と想定され、今後も更に増加が見込まれております。

一方で、国においては今後の航空需要に対応することや、我が国及び首都圏の国際競争力の強化などのために、更なる機能強化として、年間発着容量を 30 万回から 50 万回へ拡大する取り組みなどが進められておりますことから、今後、発着容量が拡大していくに伴い、航空機騒音の影響がさらに大きくなることを見込まれます。

そうしたことから、移転補償や住宅への防音工事の対象となる範囲が拡大され、併せて住宅の建築などに係る基準日が緩和されたことにより、防音工事対象住宅が大幅に増加したほか、深夜・早朝の騒音対策である住宅の寝室の内窓設置工事の制度の創設及びこの制度の対象区域の拡大や、新たに防音工事を行う際の防音サッシのペアガラスへの助成をは

じめとした防音工事の施工内容の改善を図るなど、様々な対策が講じられたところであります。

これらの対策は、成田空港の発着回数が50万回に達することを想定した、将来の対策を先取りして行われているものですので、本市といたしましては、発着回数の増加に向けて、これらの防音工事を希望する方が速やかに実施することができるよう、引き続き関係機関と協力し、防音工事の制度の周知と促進に取り組んでまいります。

**議長（藤井颯太議員）** 塩谷議員。

〔下総みどり学園 塩谷議員 自席で発言〕

**塩谷大雅議員** ご答弁ありがとうございました。成田の騒音対策について、たくさん学ぶことができました。私の自宅は補助金が交付されている地域です。例えば、防音対策のために窓が厚くなっており、それが原因で部屋の温度が上がるため、エアコンを設置する際に補助金が出ているそうです。空港があるということは、様々な国から行き来するので、国際交流をする機会に恵まれます。それは、グローバル化している今の世の中で、私達が成長することができる理由です。例えば、外国人労働者が来ることによって、日本には無い観点から物事を見ることができるため、成田市はもっと発展すると思います。私は、騒音対策をして、市民全員が安心して暮らし、生活できるようになるといいと思います。

これで下総みどり学園の質問を終わりにします。

（午後2時14分）

## ●遠山中学校

**議長（藤井颯太議員）** 次に、遠山中学校 竹下夏生議員及び池田橙馬議員。

〔遠山中学校 議員2名 登壇〕

**竹下夏生議員** 私は、遠山中学校3年の竹下夏生です。

遠山地域の開発についてお伺いいたします。

私は、遠山地域で生活していますが、最近道路工事をしている場所や新しい家を建てている所を多く見かけます。また、この地域は、成田国際空港の周辺であるため、日本語だけでなく、他国の言語も書かれた標識を見かけるようになりました。先日、学校では、航空機からの騒音防止のため、住宅防音工事など様々な対策を取り、生活安全の保全を行っ

ていることを知りました。他にも様々な地域と連携を取るため、たくさんの改善をしていると聞きました。そこで、お伺いいたします。現在、成田市が行っている「成田市都市計画マスタープラン 2023」の中間評価の資料に、「地域別のまちづくり方針」の図で、遠山地域はほかの地域より、21.5%と変更有が高いのですが、具体的に何を変更したのか、お答え願います。以上で質問を終わりにします。

議長（藤井颯太議員） 小泉市長。

〔市長 小泉一成 登壇〕

市長（小泉一成） 竹下夏生議員の地域別のまちづくり方針の変更の内容についてのご質問にお答えいたします。

都市計画マスタープランは、本市の総合計画「NARITA みらいプラン」に将来都市像として掲げている「住んでよし働いてよし訪れてよしの生涯を完結できる空の港まち なりた」を具体化していくための、都市の将来のあるべき姿や都市づくりの方向性を定めた、都市計画の基本方針であります。

本計画は、令和9年に向けた方針として平成29年3月に策定しましたが、その後、国家戦略特区を活用した国際医療福祉大学医学部の開学及び畑ヶ田地区における大学病院の開院、新生成田市場の開場、本市のゼロカーボンシティ宣言、さらには、今後の成田空港の更なる機能強化に伴う空港に勤務する方や利用者の増加、自動車交通需要の増加などを見据えた居住環境や道路などの都市基盤整備に対する要請や、超高齢・人口減少社会の到来など、本市を取り巻く社会情勢等の変化に柔軟かつ、適切に対応し、より良いまちづくりを推進する観点から、計画期間の中間にあたる昨年度に見直しを行ったところであります。

この見直しの中で、都市計画マスタープランに示す、遠山地域における生活環境や自然環境、道路などの維持や充実に向けた、まちづくりに関する、全体で65ある方針のうち、14の方針を対象とし、その内容の変更や追加を行いました。

14の方針を見直したことにつきましては、成田空港が位置する遠山地域は、今後、空港を起点・終点とした人や物の流れが大きく変化していくことや、空港で働く方々の新たな居住地としてのニーズが見込まれる地域と考えており、地域の方々にとって利便性の高

いまちづくりを進めるため、様々な事業に取り組んでいることによるものであり、他の地域と比較して、より多くの方針の見直しを実施したところでもあります。

具体的には、吉倉・久米野地区や東和田南部地区において、土地区画整理事業という手法により、新たな住宅地や産業用地を整備する計画や、畑ヶ田地区の国際医療福祉大学成田病院を中心とした医療関連産業の集積による国際的な医療・業務機能の形成、空港に関連した物流関連産業の誘致、そして、これらの事業には円滑な交通網を要することから、地域の生活利便性の向上や防災面にも役立つ新たな道路整備や東関東自動車道へのスマートインターチェンジ設置の実現に向けた事業などを進めております。

今後も、これらの事業を計画的に推進し、遠山地域のポテンシャルを生かした活力あるまちづくりの実現を目指してまいります。

**議長（藤井颯太議員）** 池田議員。

〔遠山中学校 池田橙馬議員 自席で発言〕

**池田橙馬議員** 私は、遠山中学校2年の池田橙馬です。

ご答弁ありがとうございます。質問を続けます。

「成田市都市計画マスタープラン2023」の中間評価の資料の「遠山地域のまちづくり方針図」で遠山中学校付近に学術・医療集積拠点が書いてあるのですが、国際医療福祉大学成田病院を中心に、今後どのように活性化をしていく予定なのか、市としての考えをお答え願います。

**議長（藤井颯太議員）** 鈴木都市部長。

〔都市部長 鈴木浩和 自席で発言〕

**都市部長（鈴木浩和）** 池田橙馬議員の遠山地域の活性化についてのご質問にお答えいたします。

遠山地域の畑ヶ田地区に位置する国際医療福祉大学成田病院は、新型コロナウイルス感染症の拡大による前倒しの開院から3年あまりが経過し、周辺の市町だけでなく、県内の北東部や茨城県南部の医療機関とも連携し、1日平均千名を超える外来患者を受け入れており、また、昨年の本市消防本部からの救急搬送も千名を超えるなど、すでに地域の医療体制において欠かせない存在となっております。

令和7年4月には、大学病院の近隣に、大学に関連する社会福祉法人が新たに、特別養護老人ホーム100床及び介護老人保健施設100床を備えた「成田老年医療福祉センター」を開設する予定であり、大学病院との連携によりまして、遠山地域における医療・介護のさらなる充実につながることが期待されております。

また、大学病院は、高度で先進的な医療を提供する医療機関であるとともに、医師や看護師などの医療従事者の教育機関でもあり、新たな医療技術の研究や開発を行う研究機関でもございます。今後、畑ヶ田地区をはじめとした遠山地域には、成田空港との近接性もいかして、医療に関連する様々な産業の集積が進むものと考えております。

こうした大学病院の機能の充実や新たな産業の集積に伴い、大学病院や関連施設の職員などによる人口増加も見込まれることから、本市といたしましても、土地利用の計画的な誘導を図るとともに、新たな都市機能や良好な住環境の整備に向けた取り組みを積極的に推進することによって、遠山地域のさらなる活性化を目指してまいります。そして、このことが、本市の魅力的な活気あふれるまちづくりにもつながっていくものと考えております。

議長（藤井颯太議員） 池田議員。

〔遠山中学校 池田議員 自席で発言〕

池田橙馬議員 ご答弁ありがとうございました。遠山地域の医療機関の役割、経済活動についての重要性を知ることができました。今後も国際医療福祉大学成田病院を中心に、遠山地域がより良い地域となれば良いと考えています。また、私は、将来の夢が明確には決まっておりません。ですが、働くにあたり、働く地域の環境や住む地域の環境が重要だと考えます。今よりも働きやすいまち、住みやすいまちにするために、中学生議会等の機会を通して学んだことを基に、私は自分にできることを考え、小さなことでも、コツコツと積み重ねてやっていきたいと考えます。

これで遠山中学校の質問を終わります。

（午後2時25分）

## 公津の杜中学校

議長（藤井颯太議員） 次に、公津の杜中学校 大極風香議員及び三代川柊議員。

〔公津の杜中学校 議員 2 名 登壇〕

大極風香議員 私は、公津の杜中学校 3 年の大極風香です。

成田市の国際理解についてお伺いいたします。

私は、日常生活の中で、学校の ALT の先生としか、外国の方と交流したことがありません。日常的に外国の方にお会いしたこともあまりありません。しかし、成田山新勝寺付近では、多くの外国人観光客がいらっしゃっているのを見ました。神社やお寺は外国にない日本の有名な文化です。この文化を外国の方はどのように調べて、日本にやってきたのか疑問に思いました。成田市は、海外 7 都市との友好・姉妹都市協定を結んでいると伺いました。それだけが成田市へ訪れる理由になるとは思えませんでした。

そこで、お伺いいたします。成田市では、外国人観光客を増やすためにどのような取り組みを行っているのか、お聞かせ願います。

以上で質問を終わりにします。

議長（藤井颯太議員） 小泉市長。

〔市長 小泉一成 登壇〕

市長（小泉一成） 大極風香議員の外国人観光客を増やすための取り組みについてのご質問にお答えいたします。

成田山新勝寺や宗吾霊堂などをはじめとする歴史と伝統のある寺社があり、豊かな自然環境にも恵まれている本市には、国内外から多くの観光客が訪れております。

外国人観光客を増やすためには、これらの多くの観光資源を有する本市の魅力在海外へ発信するとともに、本市を訪れた外国人観光客に滞在期間中、安全・安心で快適に観光を楽しんでいただき、本市に良いイメージを持っていただくことが、リピーターの獲得にもつながることから、魅力ある観光情報の発信と受け入れ環境の整備を図ることが、大変重要であります。

具体的な取り組みといたしましては、成田市観光協会ホームページ「FEEL 成田」で日本語、英語、中国語の繁体字・簡体字、韓国語、タイ語の6言語での情報発信を行っているほか、日本に滞在中の外国人観光客に向けて、全国500軒11万室以上のホテルで視聴可能な国際ニュースチャンネル「CNNj」にて、海外向けの本市のPR動画を放送しております。

さらには、昨年度、コロナ禍において減少した訪日観光客が戻ることを見据え、日本に関心がある外国人に対し、YouTubeにて海外向けPR動画の広告配信を行ったほか、本年5月には、SNS広告を活用して「成田伝統芸能まつり春の陣」のPRを実施いたしました。

また、民間事業者と連携し、タイと中国向けにフェイスブックにてインフルエンサーによるライブ配信を行うなど、新たなツールを活用した戦略的な情報発信を行っております。受け入れ環境の整備につきましては、本市の観光パンフレットを6言語で作成しているほか、表参道を中心とした8か所に設置した案内看板について、多言語での表記を行い、さらにピクトグラムを用いて、外国人観光客にも分かりやすい案内表記を行っております。

また、観光客が利用するトイレについて、順次、洋式のものへ改修をしているほか、表参道を中心にWi-Fiスポットの整備を行うなど、外国人観光客に快適に過ごしていただけるよう環境の整備を行っております。

そのほかにも、外国人観光客に対して日本の伝統文化を紹介するため、生け花や茶道、書道、琴、折り紙などを体験していただく「日本の香りをあなたに」を、成田ユネスコ協会の協力で毎月1回開催しているほか、成田市観光協会では、茶道や着物の着付け体験をしていただく「ティーセレモニー」を毎週1回開催しております。

今後も、本市の魅力ある観光資源の効果的な情報発信と受け入れ環境の整備を進め、外国人観光客のさらなる誘致に努めてまいります。

**議長（藤井颯太議員）** 三代川議員。

〔公津の杜中学校 三代川議員 自席で発言〕

**三代川柊議員** 私は、公津の杜中学校2年の三代川柊です。

ご答弁ありがとうございます。質問を続けます。

私は、国際交流として、小学生の頃、学校で外国の方にお来しいただいたことがあったり、日頃から英語の授業で、外国のことを学んだりしていますが、友好・姉妹都市との交流については、あまり実感がありません。

NARITA みらいプランには、「本市の友好・姉妹都市との交流を深めます。」とありますが、具体的にはどのようなことを計画しているのかお聞かせ願います。また、小中学生にできることが何かあるのか、お伺いいたします。

**議長（藤井颯太議員） 伊藤シティプロモーション部長**

〔シティプロモーション部長 伊藤善光 自席で発言〕

**シティプロモーション部長（伊藤善光）**

三代川柊議員の友好・姉妹都市との交流計画などについてのご質問にお答えいたします。

まず、友好・姉妹都市との交流について、具体的にどのようなことを計画しているのか、についてであります。本市ではこれまで、成田市国際交流協会と連携して、7つの友好・姉妹都市と交流を重ねてまいりました。

新型コロナウイルス感染症の影響により、各都市との交流は休止を余儀なくされておりましたが、本年度は、4月に韓国仁川広域市中区の訪問団が本市を訪れて行政視察を行い、5月には台湾桃園市のサッカーチームが本市を訪れて、本市のサッカーチームとスポーツを通じた交流を行い、さらには、先月にアメリカ、サンブルーノ市の訪問団が本市を訪れて、市内を視察したほか、休止していたホームステイ交流の再開に向けて、協議を行ったところであります。

今後につきましては、まずは、コロナ禍前から取り組んでいた、ホームステイ交流をはじめ、スポーツや文化芸術を通じた友好・姉妹都市との交流事業の再開に向けた取り組みを進める予定です。

次に、小中学生にできることが何かあるのか、についてであります。ホームステイ交流は、中学生を対象とした事業となりますので、活動が再開した場合には、積極的にご参加いただきたいと考えております。

また、友好・姉妹都市との交流以外にも、本市では、外国人と日本人が交流し、お互いの文化について学ぶことを目的とした新たなイベントの開催を、来年2月に予定しております。市民が外国の文化に触れることができる機会となりますので、小中学生の皆様もぜひご参加ください。

なお、来年は、市制施行70周年の記念すべき年であります。記念事業として、台湾桃園市との野球交流や、韓国仁川広域市中区及び台湾桃園市の芸能団体にも出演していただき、「成田伝統芸能まつり秋の陣」のほか、市制施行70周年の記念式典には、友好・姉妹都市の方々をお招きすることなどについて、現在、検討しているところであります。

本市では、これからも、関係団体と連携して、友好・姉妹都市との交流を深めるとともに、多くの市民が外国人と交流できる場の提供に取り組んでまいります。

**議長（藤井颯太議員）** 三代川議員。

〔公津の杜中学校 三代川議員 自席で発言〕

**三代川柊議員** ご答弁ありがとうございました。私は、この議会を通して、成田市の国際性豊かなまちづくりについて疑問に思ったことを理解することができました。議会前までは友好姉妹都市の存在を知らなかったり、疑問に思う点がたくさんあったのですが、確実に議会を通して学べたことはたくさんあります。また、小中学生の私たちにできるまちづくり、よりよいまちづくりが行われるようにがんばっていきたいと思います。私は、将来フライトアテンダントになりたいのですが、この貴重な機会を何かにかして、夢に突き進んでいきたいと思います。

これで公津の杜中学校の質問を終わりにします。

（午後2時36分）

## 久住中学校

**議長（藤井颯太議員）** 次に、久住中学校 阿須間美采議員及び岩館澄春議員。

〔久住中学校 議員2名 登壇〕

**阿須間美采議員** 私は、久住中学校3年の阿須間美采です。

成田市の防災対策についてお伺いいたします。

東日本大震災の発生から 12 年が経ちましたが、ここにきて全国各地で様々な規模の地震や異常気象による水害等が頻発しております。大規模災害時、市の職員が避難所に着くまで時間がかかるので、地域の方々が避難所の運営をすることが必要だと予想されます。

私は、防災士の資格取得の際に、HUG という避難所運営の訓練のためのゲームを体験しました。そして、避難所運営の難しさを学びました。このことから、一般市民も避難所運営の訓練をしておくべきだと考えました。

そこで、お伺いいたします。成田市では、市民が参加できる防災訓練のイベントや講習などは行わないのか、お聞かせください。

以上で質問を終わります。

議長（藤井颯太議員） 小泉市長。

〔市長 小泉一成 登壇〕

市長（小泉一成） 阿須間美采議員の市民が参加できる防災訓練のイベントや講習などについてのご質問にお答えいたします。

災害時には、自らの生命を自ら守る「自助」、自分たちのまちは自分たちで守る「共助」、行政機関などによる「公助」、これらの連携による地域防災力の向上が重要であることから、本市では、実践的な市民参加型の訓練として、総合防災訓練を開催しております。

この訓練では、成田空港直下を震源とする地震を想定し、災害時における円滑な避難所の運営のために、地域の皆様とともに、避難訓練や避難所の開設・運営を行う訓練を実施しております。そのほか、自衛隊や消防車両の展示、水消火器や煙の体験コーナーなどの様々な催しがあり、本年度は 11 月 18 日に公津の杜小学校での開催を予定しております。

また、市内 52 か所の各避難所では、避難所の近くに住んでいる 2 名を含めた計 6 名の市職員を避難所担当職員とし、各避難所の開設・運営を行うこととしておりますが、担当職員が避難所に着くまでに時間がかかる場合や、長期間にわたって避難所が開設される場合が考えられます。

このため、地域の方々や避難者にご協力をいただきながら、避難所の開設・運営を行っていく必要があり、本市では、避難所ごとに地域にお住まいの方々による避難所運営委員会の設立を働きかけております。

現在、13 の避難所運営委員会が設立されておりますが、避難所運営委員会が設立されている地域では、速やかな避難所の開設や円滑な避難所の運営を行うため、あらかじめ役割分担を決める話し合いや訓練が地域の方々によって行われております。

このほか、専門家を講師とした防災講演会や、市の職員が地域に出向いて行う防災講話などを通じた市民の皆様の防災啓発にも努めております。

今後も引き続き、市民参加型の避難所の運営訓練をはじめとした、効率的で実践的な防災訓練や講習などを実施することにより、市民の皆様の防災意識の向上に努めてまいります。

**議長（藤井颯太議員）** 岩館議員。

〔久住中学校 岩館議員 自席で発言〕

**岩館澄春議員** 私は、久住中学校2年の岩館澄春です。

ご答弁ありがとうございます。質問を続けます。

私は、震災などの災害に備えてできることについて教えていただきたいです。私は、多くの学校が避難所として使われ、震度6強や7の災害が起きても、崩壊を免れることができると知っています。しかし、さらに大きな震災が起こったとしたら、修理が必要なほど損壊する可能性が高いです。いずれ起こり得る南海トラフ巨大地震や首都直下地震に向けて、今からどのような対応を取るべきなのかを、お聞かせ願います。

**議長（藤井颯太議員）** 野村総務部長。

〔総務部長 野村吉男 自席で発言〕

**総務部長（野村吉男）** 岩館澄春議員の南海トラフ巨大地震や首都直下地震に向けての対策についてのご質問にお答えいたします。

地震はいつ起こるのか分からず、防ぐことのできない災害であることから、被害を少なくするために、日頃から防災対策をしておくことが重要であると考えております。

具体的な対策としては、倒れてきた家具でけがをしないため、家具の転倒やガラスの飛散防止対策を行うことや、災害発生時には電気やガス、水道、通信などのライフラインが止まることが想定されるため、最低3日間分、できれば1週間分の飲料水や非常食などの備蓄品や、非常持ち出し品の準備などが挙げられます。

また、家の近くの避難場所や避難経路の確認、または、避難所への避難だけでなく、親類や友人の家へ避難、いわゆる分散避難についても検討するなど、いざという時のために、日頃からご家族で話し合うことや、さらには、ご近所や地域の方々との協力体制を作っておくことで、災害への備えと心構えをしておくことも大変重要であります。

このような、いざという時のための準備については、本年、市から各ご家庭に配布いたしました成田市防災ハザードマップなどを参考としていただきたいと考えております。

**議長（藤井颯太議員）** 岩館議員。

〔久住中学校 岩館議員 自席で発言〕

**岩館澄春議員** ご答弁ありがとうございました。今答えを聞いて、市で勤めてくださっている皆さんが、私達の生活のために日頃からいろいろなことを考えてくださっていることが分かりました。僕は、東日本大震災の時はまだ幼く、そのとき、どのようなことがあったのか覚えていません。なので、大きい震災がどれほど私達の日常に影響を及ぼすのか、深く理解できていないと思います。いつ起こるか分からない災害に対して、市がどのような対策を取っているかを今日理解し、安心して暮らすことができます。これからも自分たちでできる震災への対策を強化していきたいです。

これで久住中学校の質問を終わります。

（午後 2 時 47 分）

**議長（藤井颯太議員）** ここで、暫時、休憩といたします。

前半の議事進行はここまでとなります。皆さん、ご協力いただきありがとうございました。

---

---

【休 憩】

---

---

## 再開及び議長の交代

〔開始のブザー〕

事務局（市民協働課長） 中学生議会を再開するにあたり、議長の交代があります。大竹勇輝議員は、議長席にお着き願います。

議長（大竹勇輝議員） 後半の議長を務めさせていただきます公津の杜中学校 3 年の大竹勇輝です。中学生議会の円滑な議事進行に、皆様のご協力をお願いいたします。

（午後 3 時 00 分）

議長（大竹勇輝議員） 再開いたします。代表質問を続けます。

### 西中学校

議長（大竹勇輝議員） 西中学校 鈴木寧乃議員及び田中裕菜議員。

〔西中学校 議員 2 名 登壇〕

鈴木寧乃議員 私は、西中学校 3 年の鈴木寧乃です。

成田市が行っているスポーツ施策についてお伺いいたします。

私は、体を動かすことが好きで、学校の体育の授業や部活動などにおいて、スポーツを楽しんでいます。また、様々な種目での日本人選手の活躍がニュースで取り上げられる度に、勇気や元気をもらっており、スポーツの素晴らしさを日々実感しています。自分が大人になってもスポーツを続けていきたいと、また、将来、自分の子どもと一緒にスポーツを楽しみたいと思っています。

そこで、お伺いいたします。「NARITA 未来プラン」基本目標の中の「学び、文化を育て、スポーツを楽しむまちづくり」において、「スポーツを通じた交流活動を促進します。」とあります。特に、親子で一緒にスポーツを行い、その中で交流が生まれ、深まるような機会が定期的にあるとよいのではないかと考えます。市として、そのような機会を設けるのに、どのように考えているのかお答え願います。

以上で質問を終わります。

議長（大竹勇輝議員） 小泉市長。

〔市長 小泉一成 登壇〕

市長（小泉一成） 鈴木寧乃議員のスポーツを通じた親子の交流の機会についてのご質問にお答えいたします。

コミュニケーションの希薄化が進む現代社会において、スポーツを通じた親子のふれあいや、仲間づくり、地域コミュニティをはじめ、高齢者や障がい者の社会参加を図るうえで、スポーツは重要な役割を担っているものと認識しております。

こうしたことから、本市では、年齢や性別、国籍や障がいの有無にかかわらず、誰もが生涯にわたって気軽にスポーツに親しみ、楽しめるまちを目指すため、市民の皆様積極的にスポーツに参画できるよう、様々なスポーツイベントを実施しているところであります。

親子で参加できる主なスポーツイベントといたしまして、本市では、「成田 POP ラン大会」をはじめ、ジャパンラグビー・リーグワン所属のクボタスピアーズなどプロスポーツチームとも連携し実施している「NARITA スポーツツーリズムフェス」や、「ニュースポーツ」、「ポッチャ」といった様々な種目が体験できる「成田スポーツフェスティバル」、そして、8月18日から24日までの共生社会ウィークにおけるパラスポーツ体験会などを開催しております。

さらに、本市のスポーツ団体である成田市レクリエーション協会では、ウォークラリー大会やレクリエーション祭、さらにバウンドテニス親子体験教室を、また、成田市スポーツ推進委員連絡協議会では、「うなバレー大会」を開催するなど、親子で参加することができるスポーツイベントを数多く、実施しておりますので、議員の皆様におかれましても、是非ご参加いただきますようお願いいたします。

今後も、誰もがいつでも気軽に参加できるスポーツの機会を創出するとともに、親子の交流はもちろんのこと、市民同士の交流につきましても、引き続き促進してまいります。

議長（大竹勇輝議員） 田中議員。

〔西中学校 田中議員 自席で発言〕

田中裕菜議員 私は、西中学校3年の田中裕菜です。

ご答弁ありがとうございます。質問を続けます。

成田市では、東京 2020 オリンピック・パラリンピック開催後、アイルランドパラリンピック委員会とのレガシー協定を締結しており、「障がいの有無に関わらず誰もが平等にスポーツに親しみ、そして、スポーツをきっかけとした共生社会の実現」を目指し、昨年は「共生社会ウィーク」中に様々なイベントを実施していました。「NARITA みらいプラン」の中に「誰もが参加できるスポーツ活動を促進します。」とあるように、たくさんの方々からスポーツを知り、楽しむ機会が期間を問わずさらに増えるとよいと思うのですが、市としてどのようにお考えでしょうか。また、それらをより多くの人に知ってもらうための具体的な PR 方法について、お答え願います。

**議長（大竹勇輝議員）** 伊藤シティプロモーション部長。

〔シティプロモーション部長 伊藤善光 自席で発言〕

**シティプロモーション部長（伊藤善光）** 田中裕菜議員の誰もが参加できるスポーツ活動の促進についてのご質問にお答えいたします。

まず、たくさんの方々からスポーツを知り、楽しむ機会が期間を問わず、さらに増えることについてではありますが、議員がおっしゃられた「共生社会ウィーク」につきましては、毎年 8 月 18 日から 24 日までの 1 週間を本市における共生社会ウィークと位置づけ、昨年度から各種イベントを実施しているところであります。今年度は、さらに多くの方々にパラスポーツを知っていただき、楽しんでいただく機会を作るため、今月 19 日の土曜日に、吉本興業株式会社と協力し、「共生社会ウィークメインイベント～お笑い芸人とパラスポーツを楽しもう～」と題して、ボッチャや車いすバスケットボールなど 8 種目のパラスポーツ体験に加え、新しいユニバーサルスポーツである、ふうせんバレーボールの大会や、東京 2020 パラリンピック競泳の金メダリストである木村敬一選手のトークショーなどを開催し、多くの方にご来場いただいたところであります。

また、本市では、共生社会ウィーク以外にも、子どもや高齢者、障がいのある方など幅広い市民が参加できる「成田スポーツフェスティバル」や「NARITA スポーツツーリズムフェス」などの様々なスポーツイベントを開催しております。

さらに、これまで本市では、女子レスリングワールドカップ成田大会や全日本女子硬式クラブ野球選手権大会といった国内外の競技大会をはじめ、ブラインドサッカー日本選手権や、障がい者立位テニス東日本大会などのパラスポーツ大会を誘致するとともに、東京2020 オリンピック・パラリンピック競技大会においては、県内最多となる5か国の事前キャンプを受け入れるなど、スポーツの楽しさや喜び、感動を直接感じることができる機会の提供にも努めているところでございます。

今後につきましても、多くの方々が様々なスポーツに触れ、そして、スポーツを楽しむことができるイベントの開催や、大会の誘致に積極的に取り組んでまいります。

次に、スポーツを知り、楽しむ機会を、より多くの人に知ってもらうための具体的なPR方法についてであります。スポーツイベントなどは、一人でも多くの市民の皆様に参加や観戦をしていただき、スポーツの魅力を感じてもらうことが重要であることから、広報なりたをはじめ、市のホームページやポスターの掲示、さらには、フェイスブックやライン、ツイッターなど様々な媒体を最大限に活用して情報発信に努めております。

今後も引き続き、年間を通して、誰もが気軽に参加できる魅力的なスポーツイベントを開催し、市民のスポーツ活動の推進を図ってまいります。

**議長（大竹勇輝議員）** 田中議員。

〔西中学校 田中議員 自席で発言〕

**田中裕菜議員** ご答弁ありがとうございます。私は、14年間成田市で毎日不便なく楽しく過ごしております。NARITA 未来プランにも「住んでよし 働いてよし 訪れてよしの生涯を完結できる空の港まち なりた」と記載されており、その中で、私達西中学校はスポーツという大きなテーマのもと、生徒会及び先生方と話し合いを重ねてきました。成田市では、現在も共生社会ウィークなどで、様々な取り組みを行っていると思います。質疑にもあったように、一部の期間だけでなく、夏、冬などとスポーツに触れる機会を増やせるようイベント開催の頻度を増やすことを提案します。そして、私は、大人になっても成田市に住み続けたいと考えています。その中で、自分が家庭を持った際には、家族で成田市のスポーツ活動に参加したいです。

これで西中学校の質問を終わりにします。

(午後3時12分)

## 吾妻中学校

議長(大竹勇輝議員) 次に、吾妻中学校 伊藤ひなの議員及び齋藤莉緒議員。

[吾妻中学校 議員2名 登壇]

伊藤ひなの議員 私は、吾妻中学校2年の伊藤ひなのです。

成田市の子育て支援策についてお伺いたします。将来、この成田市を担っていく人材として子どもたちの力が必要となると思います。しかし、厚生労働省が公表した2022年の合計特殊出生率は1.26と過去最低となっています。新型コロナウイルス感染症の影響もあり、17年ぶりの低水準となりました。この現状を変えるために、成田市でも児童手当の支給対象の拡大などの対策をするべきだと私は考えます。成田市子ども・子育て支援事業計画の基本目標「子育てを応援する環境づくり」にあるとおり、子育て家庭の経済的な負担を軽減するためにも、この取り組みの必要性を感じます。子育てを支援する環境を整えることで、子どもを産み、育てやすくなり、少子化に歯止めをかけることにつながると思います。現在、中学生までが対象となっている児童手当に関して、対象を高校生まで拡大することはできないのか、お答え願います。また、子育て支援の一環として、成田市が重点的に行っている取り組みを教えてください。

以上で質問を終わります。

議長(大竹勇輝議員) 小泉市長。

[市長 小泉一成 登壇]

市長(小泉一成) 伊藤ひなの議員の子育て支援策についてのご質問にお答えいたします。

まず、中学生までが対象となっている児童手当について、対象を高校生まで拡大することはできないのか、とのことではありますが、児童手当は、家庭等における生活の安定に役立てるとともに、これからの社会を担う児童の健やかな成長の助けになることを目的に、児童手当法により、中学校卒業までの児童を養育している人に支給される手当であります。

現在の制度では、児童の年齢や人数により児童一人当たり月額で 1 万 5 千円または 1 万円を支給しておりますが、所得制限があるため、支給額が減額または手当が支給されない場合もあります。

このため、児童手当については、国が少子化や人口減少に歯止めをかけるための次元の異なる少子化対策の実現に向け、本年 6 月に閣議決定した「こども未来戦略方針」において、来年度から対象児童を高校生まで拡充することや所得制限を撤廃すること、第 3 子以降の児童に対する手当を増額することなどを示しておりますことから、本市においても、国による制度改正が行われた際には、適切に対応してまいります。

次に、子育て支援の一環として、本市が重点的に行っている取り組みについてですが、本市では待機児童対策を最重要課題の一つとして捉え、保育園や児童ホームにおいては、施設整備などにより施設の定員を増やすとともに、保育士の給与に本市独自の上乗せ補助、いわゆる「なりた手当」を支給することにより、保育士を確保することで待機児童の解消及び保育サービスの充実に向けた取り組みを重点的かつ積極的に進めております。

また、子どもの保健対策の充実を図るための取り組みといたしましては、出生から中学 3 年生までを対象とした「子ども医療費助成制度」に加え、昨年度から本市独自の支援策として「高校生等医療費助成制度」を実施しております。今月からは、子ども医療費助成受給券の発行対象年齢を 18 歳になった年の年度末までとしたことで、高校生等についても受給券を使用した受診ができるようになり、加えて月額の自己負担限度額を新たに導入したことで、さらに子育て世帯の利便性の向上と経済的負担の軽減を図っているところであります。

子育て支援策の充実、本市が将来にわたって持続的な発展を続けていくための重要施策の一つと考えており、次の時代の社会を担う子どもを安心して産み育てることができる環境を整備し、子どもが健やかに育つことができるよう、一層の充実に努めるとともに、若者や子育て世代にとって魅力的なまちとなるよう、今後も様々な施策を実施してまいります。

**議長（大竹勇輝議員） 齋藤議員**

〔吾妻中学校 齋藤議員 自席で発言〕

**齋藤莉緒議員** 私は、吾妻中学校 2 年の齋藤莉緒です。

ご答弁ありがとうございます。質問を続けます。

成田市の給食費の無償化についてお伺いいたします。給食費について、私の友人から話を聞き、その後詳しく調べたのですが、千葉県市川市では令和 5 年 1 月から 17 校の学校で給食費の無償化が実施されており、令和 5 年 4 月の時点では、市内の全ての市立小中学校で給食費の無償化が実施されています。現在の成田市では、義務教育課程の学校に在籍している第 3 子以降やひとり親家庭、中学 3 年生の保護者が給食費の無料化の対象とされていますが、市川市のように市立小中学校の学生全員を対象に給食費を無償化することはできないのか、お答え願います。

**議長（大竹勇輝議員） 小川教育部長。**

〔教育部長 小川雅彦 自席で発言〕

**教育部長（小川雅彦）**

齋藤莉緒議員の給食費の無償化についてのご質問にお答えいたします。

本市では、昨年 4 月から実施している第 3 子以降の給食費の無料化に加え、本年 4 月から、進路の決定や入学までの費用など、特に経済的負担が増加する中学 3 年生及び義務教育学校 9 年生の保護者と、経済的な負担が大きいひとり親家庭の保護者を対象に、給食費の無料化を行い、子育てに対する経済的な負担の軽減を図っております。

給食費の無料化につきましては、本格的な取り組みを開始したところではありますが、完全無料化には多額の費用負担が生じ、他の事業への影響を及ぼすことも考えられますことから、全体的な事業の進捗などを総合的に見極めながら検討してまいります。

**議長（大竹勇輝議員） 齋藤議員。**

〔吾妻中学校 齋藤議員 自席で発言〕

**齋藤莉緒議員** ご答弁ありがとうございました。私たち子どもは成田市の子育て支援政策について知らないことが多くあります。今回質問させていただいた児童手当や子育て支援の一環として、成田市が重点的に行っていること、そして、給食費の無償化について

より深く知ることができたこと、とても嬉しく思います。保育サービスなど成田市の子育て支援政策の充実のおかげで、今の私たちがあるのだなと感じました。また、将来成田市で子育てをする事になった際、成田市のサービス等を理解し、活用しながら育児をしたいです。

これで吾妻中学校からの質問を終わりにします。

(午後3時22分)

## 成田中学校

議長(大竹勇輝議員) 次に、成田中学校 立石結衣議員及び武士田ももこ議員。

〔成田中学校 議員2名 登壇〕

議長(大竹勇輝議員) 立石議員

〔成田中学校 立石議員 質問席で発言〕

立石結衣議員 私は、成田中学校3年の立石結衣です。

成田市の農業問題についてお伺いいたします。

成田市の農業について興味があり調べていたら、農業の後継者が少ないという課題があると知りました。

私は、後継者問題を解決するには、農業に触れてもらう機会を増やして、農業の魅力を知ってもらうことが一番必要なのではないかと考えます。パンフレット等で知ってもらうというのも大切だとは思いますが、それ以上に実際に体験して農業の魅力を知ってもらうことが必要だと思います。既に行われている農業体験もあるようですが、ただ行うだけでは、体験に足を運ぶ人は一定の人に限られてしまいます。

そこで、お伺いいたします。職場体験のように中学校で農業を体験する機会を設けるなどの取り組みを始めてみてはいかがでしょうか。

以上で質問を終わります。

議長(大竹勇輝議員) 小泉市長。

〔市長 小泉一成 登壇〕

**市長（小泉一成）** 立石結衣議員の中学校での農業体験の機会を設けることについてのご質問にお答えいたします。

全国的に農家戸数は減少を続けており、後継者不足が課題となっております。本市においても農家戸数は減少しており、株式会社などの法人を含めた農業経営体数は、平成22年において2千95経営体でありましたが、令和2年においては1千431経営体となり、10年間で約30パーセント減少しております。

このため、本市においては農業に関する様々な事業を実施しており、農業の魅力を知ってもらうための一つとして農業体験ができる機会を増やすことへの取り組みも実施しております。

まず、若い農業従事者の指導のもと、自然とのふれあいや収穫することの喜びを知り、農業に対する関心や理解を深めることを目的に、「親子体験農業教室」を開催しております。積極的に周知活動を行ったことにより、多くの家族に参加していただき、農業への理解を深めることにつながっております。

そのほかにも、農作業を通じ自然にふれあうことができるよう、「市民農園」の運営や、若い農業従事者の団体やJAなどと連携し、稲作りや芋作り体験教室の開催、地元幼稚園児などへの農業体験の場の提供を行っております。参加者などが自らの手で野菜などを栽培することで農業の魅力を感じることができることから、好評をいただいております。

さらに、幅広い層に本市農業の魅力を感じてもらい、市内特産品などの周知を図る観点から、市内の小中学生や新規転入者へ「地産地消ガイドマップ」の配布を行っております。また、若い世代の方にも農業の魅力を知ってもらえるよう、広報なりたにおいて、若い農業従事者の特集記事の掲載や、SNSを活用し、若い世代の方に対する情報発信などを行っております。

このように、様々な取り組みを実施しておりますが、中学生の職場体験につきましても、若い世代の方への農業の魅力の発信につながることから、今後、農業従事者や関係団体と連携を図り、農業体験をする機会の創出に努めてまいります。

**議長（大竹勇輝議員）** 武士田議員

〔成田中学校 武士田議員 自席で発言〕

**武士田議員** 私は、成田中学校3年の武士田ももこです。

ご答弁ありがとうございます。質問を続けます。

農業を新たに始めようとする方が直面する問題として、多く挙げられているのが農業用機械の費用が高いことだそうです。このことを知り、私は、後継者問題を解決するためには、新たに農業を始めようとする方が始めやすく、また、既に農業を営んでいる方が続けやすくする必要があったと考えました。

そこで、お伺いいたします。市で農業用機械を購入し、農業を新たに始めようとする方に安価で貸し出す取り組みを行ってみてはいかがでしょうか。

**議長（大竹勇輝議員）** 堀越経済部長。

〔経済部長 堀越正宏 自席で発言〕

**経済部長（堀越正宏）** 武士田ももこ議員の農業用機械の貸出しについてのご質問にお答えいたします。

現在、農業経営をするうえでの問題点の一つとして、農業用機械などの設備投資に多大な費用がかかることが挙げられます。リースやレンタルによる農業用機械の活用は経営手法の一つと考えられますが、貸出しを実施するには、農作業が集中する時期の利用調整や必要な台数の確保などの課題があるため、本市においては、農業従事者に対して農業用機械の価格の最大50パーセントを補助する事業を実施しております。これは、近隣自治体では実施していない本市独自の事業であり、高価な農業用機械であっても負担額が大幅に軽減できることから、大変好評をいただいております。

また、国や県においては、新規就農者に対する補助事業として、農業用機械やさつまいも貯蔵庫のような施設に対する補助など、様々な支援を行っております。

今後においても、農業用機械の補助を含む様々な支援により、安心して農業経営を継続できるよう、関係機関と連携を図ってまいります。

**議長（大竹勇輝議員）** 武士田議員。

〔成田中学校 武士田議員 自席で発言〕

**武士田ももこ議員** ご答弁ありがとうございました。私は、給食に出る成田の野菜がおいしくて、とても大好きです。私達の故郷である成田市の農業の良さをもっと多くの方々に伝えていきたいと思えます。すばらしい成田の農業がずっと残り続けることを願っています。

これで成田中学校の質問を終わります。

(午後3時30分)

## 中台中学校

**議長(大竹勇輝議員)** 次に、中台中学校 岡田愛衣議員及び田中ほのか議員。

〔中台中学校 議員2名 登壇〕

**岡田愛衣議員** 私は、中台中学校2年の岡田愛衣です。

成田市のごみ問題についてお伺いいたします。

成田市は成田空港があるので、多くの外国人観光客や県外の観光客が訪れます。そのため、ごみがポイ捨てされていると成田市の印象が悪くなってしまうと思います。

私は、お店や公共施設のごみ箱のごみが散乱し、ごみが捨てられていたり、地面にごみがたくさん落ちていたりするのをよく見かけます。

そのようなことが起きないようにするために、市として、どのような取り組みをしていくのか、お伺いいたします。また、私たちもごみの分別のルールをもう一度確認したいので、教えてください。

以上で質問を終わります。

**議長(大竹勇輝議員)** 小泉市長。

〔市長 小泉一成 登壇〕

**市長(小泉一成)** 岡田愛衣議員のごみの散乱防止と分別ルールについてのご質問にお答えいたします。

ポイ捨てなど、ごみの散乱が起きないようにするために必要な取り組みについてありますが、本市では、市内に住んでいる人や駅の利用者、観光客などの皆様と、事業者及び市が連携して清潔で美しいまちづくりを進めるため、「成田市空き缶等及び吸い殻等の散乱の防止に関する条例」いわゆる「ポイ捨て禁止条例」を定めております。

この条例の目的を実現するため、本市では「ポイ捨てをなくし、私たちのまちを私たちの手で美しく」を合言葉に、毎年、5月、8月、12月の年3回、各自治会や各種団体などに参加を呼びかけて、市内各地域の道路や公園などに捨てられたビン・カンや散乱したごみを収集する環境美化運動を実施しております。

さらに、商工会議所や各事業所の方々にご協力をいただき、毎月 JR 成田駅・京成成田駅周辺のごみ拾いを行う駅前クリーン運動を実施し、ごみのポイ捨てがしづらい環境をつくるとともに、広報なりたや市のホームページ、京成成田駅や国道 51 号から見える大型タウンビジョン、イオンモール成田のデジタルサイネージ「わが街 NAVI」を通じて、ポイ捨てに対する注意喚起を行うなど、マナーの向上に努めております。

また、ごみのポイ捨てや散乱防止のためには、出かけた先でのごみは持ち帰る、必要な分だけを買う、マイボトルを使うなど、私たち一人ひとりが、ごみを出さないために何ができるかを考えながら行動することが必要です。

私たち一人ひとりがごみを減らす意識を持ち、このような行動を心掛けることで、ポイ捨てがなくなり、ごみの無いきれいなまちづくりにつながると考えております。

次に、本市のごみの分別ルールについてであります。ごみを捨てる際には、ルールに従ってしっかり分別することが大変重要です。本市では、ご家庭から出るごみについて、可燃物のほか、ビン、カン類、紙類、布類、ペットボトルなどごみの種類ごとに分別したうえで、指定収集袋に入れたり、ひもでしばったりするなど、ごみの種類ごとの排出方法に従い、決められた日時にごみ集積所などに出していただくようお願いしております。

ごみ集積所から収集された金属やプラスチック、紙類などの様々な資源物は、選別や洗浄を行ったのち、再生品として活用されます。

ごみと資源物を適正に分別することで、ごみが減るだけでなく、限りある資源の有効活用が図られますので、ぜひ皆様のご家庭においても適正な分別にご協力くださいますようお願いいたします。

**議長（大竹勇輝議員）** 田中議員

〔中台中学校 田中議員 自席で発言〕

**田中ほのか議員** 私は、中台中学校2年の田中ほのかです。

ご答弁ありがとうございます。質問を続けます。

成田市は、毎年祇園祭が開催され、様々な国や県の観光客が多く集まります。

しかし、外国からの観光客の中には、日本のルールを知らないため、ごみのポイ捨てをしてしまう方もいると思います。

外国人観光客に日本のルールを知ってもらうために、どのような取り組みをしていくのか、お答え願います。

**議長（大竹勇輝議員）** 伊藤シティプロモーション部長。

〔シティプロモーション部長 伊藤善光 自席で発言〕

**シティプロモーション部長（伊藤善光）** 田中ほのか議員の外国人観光客に日本のルールを知ってもらうための取り組みについてのご質問にお答えいたします。

本市では、外国人観光客に日本のルールを知ってもらうため、観光庁において作成した、観光地におけるマナー啓発のためのPR動画を、成田観光館及び成田市観光案内所において放映し、成田を訪れた外国人観光客へのマナー啓発を行っております。

この動画の内容は、許可されていない場所での喫煙やごみのポイ捨て、スマートフォンを使用した自撮りや路上で広がっての歩行など、他の人の迷惑となる行為の防止といった観光地でのマナーのほか、電車内や駅でのマナー、宿泊施設でのマナーなどで、言語は英語、韓国語、中国語の繁体字・簡体字での多言語対応となっております。

引き続き、観光館や観光案内所でマナー啓発の放映を行うほか、成田市観光協会のホームページ「FEEL 成田」においても、視聴ができるよう対応するとともに、今後も、同協会をはじめとする関係団体と協力・連携しながら、外国人観光客に日本のルールを知ってもらうための取り組みを推進してまいります。

**議長（大竹勇輝議員）** 田中議員。

〔中台中学校 田中議員 自席で発言〕

**田中ほのか議員** ご答弁ありがとうございました。最近では、リサイクル、SDGsなど環境問題のための様々な取り組みをよく耳にします。その中で私達が着目したのがごみ問題についてです。市のごみ問題について改善していくことで、成田市からごみ問題に関す

る新たな解決策をほかの地域に発信していけるとと思います。成田市には、毎年たくさんの観光客が訪れています。訪れた方に良い印象を持っていただけるようにして欲しいです。私もごみを正しく捨てたり、地域のごみ拾い活動に参加したりと、ポイ捨てに対する意識を高め、できることから少しずつ始めていきたいとと思います。

これで成田市立中台中学校からの質問を終わります。

(午後3時40分)

## 大栄みらい学園

議長(大竹勇輝議員) 次に、大栄みらい学園 三谷拓翔議員及び高木彩夏議員。

〔大栄みらい学園 議員2名 登壇〕

議長(大竹勇輝議員) 三谷議員

〔大栄みらい学園 三谷議員 質問席で発言〕

三谷拓翔議員 私は、大栄みらい学園8年の三谷拓翔です。

成田市の部活動の地域移行についてお伺いいたします。

部活動の地域移行は、これまで公立の中学校や高等学校で教員が担ってきた部活動の運営を地域のスポーツクラブなどに移行し、教員の休日出勤による部活動の負担軽減や生徒が充実した部活動をすることなどが目的とされています。

しかし、大栄地区のような人口の少ない地域で、部活動を地域に移行することは、困難な状況にあると思います。さらに、外部の講師になると教員とは違い、学校生活での接点がないため、生徒と指導者の間でコミュニケーションがうまくいかないことがあると考えられます。その結果、生徒に精神的、身体的な負担が大きくなると考えられます。

本校のように人材の確保が困難になりそうな学校には、どのような対策を取るか、教えてください。

以上で質問を終わります。

議長（大竹勇輝議員） 関川教育長。

〔教育長 関川義雄 登壇〕

教育長（関川義雄） 三谷拓翔議員の部活動の地域移行に係る人材の確保についてのご質問にお答えいたします。

部活動の地域移行については、少子化による生徒数の減少や教員の負担軽減を背景として、国や県から令和5年度以降の3年間を「改革推進期間」とし、今まで学校が担ってきた部活動に代わり、休日は地域クラブにおいて活動を実施していく方針が示されております。本市では、本年9月から西中学校を活動場所とする、柔道の地域クラブを設置し、その効果や影響などを検証してまいります。

学校部活動から地域クラブ活動への移行にあたっては、大栄地区に限らず、指導者の確保が最大の課題であると考えております。そのため、千葉県の広域人材バンクの活用や、成田市スポーツ協会などの地域指導者及び休日の指導を強く希望する教員の参画を促し、地域のスポーツ活動や文化活動が実施できるよう努めているところであります。将来的には、指導資格や指導経験の有無にとらわれず、地域指導者を確保することも必要であると考えているため、指導者を養成するための講習会に意欲のある方が積極的に参加していただけるよう努めてまいります。また、平日の学校部活動を指導する顧問と地域クラブ活動の指導者が連携を図り、指導の方向性や生徒の心身の状態について情報共有を行うことで、部活動と地域クラブ活動の円滑な運営ができるよう、モデル事業を実施していく中で検証してまいります。

教育委員会といたしましては、地域クラブ活動の指導者がいないことや活動場所がないなどの理由で、子どもたちの「スポーツをしたい、文化活動をしたい」という意欲が損なわれることがないように、準備を進めてまいりたいと考えております。

議長（大竹勇輝議員） 高木議員

〔大栄みらい学園 高木議員 自席で発言〕

高木彩夏議員 私は、大栄みらい学園8年の高木彩夏です。

ご答弁ありがとうございます。質問を続けます。

部活動を地域に移行することで、会費の徴収や活動場所までの保護者の送迎が必要になる場合があります。このような家庭への負担によって、活動に参加したくても参加できない生徒が出てくるのが考えられます。そういったことを防ぐために、家庭の負担を減らす方が重要と考えていますが、市が考えている具体策を教えてください。

**議長（大竹勇輝議員）** 小川教育部長。

〔教育部長 小川雅彦 自席で発言〕

**教育部長（小川雅彦）** 高木彩夏議員の部活動の地域移行に伴う家庭の負担の軽減策についてのご質問にお答えいたします。

地域クラブ活動に係る会費についてであります。モデル事業の検証期間である本年9月からの2年間については、地域クラブ活動とそれ以外の部活動の均衡を図るため、保護者の会費負担は考えておりません。

しかし、その後は、一般的な習い事と同様、運営に際し、費用の負担が必要となりますが、できる限り低額の設定となることや、経済的に困窮する家庭への会費負担の支援について検討してまいります。

また、送迎についてであります。千葉県和学校部活動及び地域クラブ活動に関するガイドラインにおいても、公共施設や地域の学校を活用することが推奨されているため、なるべく身近な地域に多くの指導者や活動場所が確保できるよう、地域の子どもを地域で育てる土壌づくりを推進し、無理なく活動に参加できるよう努めてまいります。

**議長（大竹勇輝議員）** 高木議員

〔大栄みらい学園 高木議員 自席で発言〕

**高木彩夏議員** ご答弁ありがとうございました。部活動の地域移行は、教職員の負担軽減や子供たちのスポーツ・文化活動の充実につながります。持続的で多様な活動のためには、地域の力が不可欠なので、より多くの市民の方がこの事業に参加することを願っています。私は、将来周産期に携われる職業につきたいと思っています。仕事を通して地域に貢献できるようになりたいです。

これで大栄みらい学園からの質問を終わります。

(午後3時48分)

## 玉造中学校

議長(大竹勇輝議員) 次に、玉造中学校 那須太郎議員及び沼田有陽議員。

〔玉造中学校 議員2名 登壇〕

議長(大竹勇輝議員) 那須議員

〔玉造中学校 那須議員 質問席で発言〕

那須太郎議員 私は、玉造中学校2年の那須太郎です。

成田市の観光施策についてお伺いいたします。

成田市には、成田山新勝寺などの観光資源があり、成田空港もあるため、外国人観光客も多く訪れていると思います。しかし、私の印象では、現在の若い世代は古くからの日本の文化への関心が低くなっており、若い世代の観光客数を増やすことが難しいと思います。

また、市内や県内においては成田市の魅力を伝える活動が比較的行いやすいと思いますが、県外ではその活動をするのが難しくなると思います。

そこで、成田市は魅力を伝える活動以外でどのような工夫で若い世代の観光客数を増やそうと考えているのか、お伺いいたします。

以上で質問を終わります。

議長(大竹勇輝議員) 小泉市長。

〔市長 小泉一成 登壇〕

市長(小泉一成) 那須太郎議員の若い世代の観光客を増やす工夫についてのご質問にお答えいたします。

本市では、通年型の観光地として、若い世代を含めた幅広い観光客の誘致を図るため、成田祇園祭、成田太鼓祭、成田伝統芸能まつり、成田弦まつりのほか、梅の季節には成田の梅まつり、紅葉の時期には成田山公園紅葉まつりなど、四季折々に魅力ある様々なイベントを開催しております。

先月 7 日から 9 日まで、成田祇園祭が 4 年ぶりにコロナ禍前と同じ内容で開催され、この 3 日間で 48 万 5 千人もの人出があり、若い世代の観光客の姿も多く見られ、表参道周辺は大変なにぎわいを見せておりました。成田祇園祭は、300 年を超える歴史を持ち、本市を代表する伝統的な行事であり、関東でも有数の夏祭りに数えられております。これらの伝統を継承していくことは、成田のまちににぎわいと活気を生むものと考えております。

また、昨年から新たなイベントとしてスタートした、本市に関係の深い歌舞伎を活用した「成田伝統芸能まつり春の陣」においては、埼玉県秩父郡小鹿野町の「小鹿野歌舞伎」や石川県小松市の「大文字町曳山子供歌舞伎」の公演のほか、古典芸能解説者である、葛西聖司さんを講師にお迎えし、特別歌舞伎講座や歌舞伎俳優の片岡千之助さんとのトークショーなどを行いました。

さらに、多様な世代が楽しめるイベントとなるよう、デジタルスタンプラリーや子ども向け歌舞伎ワークショップを実施したほか、成田市観光キャラクターの「うなりくん」を活用した「ご当地キャラ成田詣」を同時開催するなど、若い人向けのコンテンツを多く設けております。また、同イベント開催期間中に実施した WEB アンケートにおける 10 代・20 代の方からの回答では、屋台村の開催などの食に関するものや、大道芸やお笑いの要素を盛り込んだものを希望するご意見がありましたことから、今後の参考にしてまいります。

なお、各種イベントの実施にあたっては、周知のための情報発信も重要であると考えていることから、ポスター、チラシを活用した PR のほか、特に若い世代の方を対象とした情報発信として、インターネット広告の配信や、ツイッターやインスタグラム、ティックトックといった SNS を活用したイベントの周知を行っております。

そのほかにも、若い世代の観光客の掘り起こしを図るため、映画やテレビ番組などのロケ誘致に努めており、昨年は、ジャニーズ WEST が出演する「リア突 WEST」の撮影や、日向坂 46 のミュージックビデオの撮影が市内で行われたほか、今月 5 日には、「1 億 3000 万人の SHOW チャンネル」において、市内の飲食店が紹介されました。

今後も様々な観光施策を展開するとともに、これまで以上に魅力あるイベントを開催し、

若い世代の観光客の誘致を図ってまいります。

**議長（大竹勇輝議員）** 沼田議員

〔玉造中学校 沼田議員 自席で発言〕

**沼田有陽議員** 私は、玉造中学校 2 年の沼田有陽です。

ご答弁ありがとうございます。質問を続けます。

若い世代の観光客数を増やす策として、観光資源を増やす取り組みを検討していますか。成田市には、古くから残る成田山新勝寺があるため、新しく、魅力的なものを増やすことで、新しい建物と古い建物とのギャップを楽しむことができると思います。現時点で、このようなことを検討しているのか、お聞かせ願います。また、検討している場合は、具体的にどのようなものを考えているのか、教えてください。

以上で質問を終わります。

**議長（大竹勇輝議員）** 伊藤シティプロモーション部長。

〔シティプロモーション部長 伊藤善光 自席で発言〕

**シティプロモーション部長（伊藤善光）** 沼田有陽議員の新しく、魅力的な観光資源を増やす取り組みについてのご質問にお答えいたします。

本市では、成田山新勝寺や宗吾霊堂といった歴史ある観光拠点のほか、成田空港、さくらの山など多くの観光拠点を有するとともに、新たな観光拠点として、新生成田市場が昨年 1 月に開場したところでございます。

新生成田市場では、昨年 11 月に市場に関連した調味料や食品などを取り扱う施設である関連食品棟がオープンし、今後は集客施設棟の整備を予定しているところであります。

この集客施設棟につきましては、多くの市民の皆様や国内外の観光客が来場する卸売市場という特性を活かし、本市をはじめとする日本のおいしい農水産物を使用した食事の提供や、日本の食文化に係る歴史や伝統、魅力などの情報を発信・体験できる機能などを有することで、「食」をテーマとした賑わいを創出していくほか、成田空港滑走路に隣接している特色を生かした飛行機に見える展望デッキの整備も進めていくなど、空港がある本市ならではの新たな観光拠点となるものと考えております。

若い世代の観光客を増やすためには、歴史ある伝統的なものと、新しいものを融和させた取り組みが重要であると考えておりますので、引き続き検討してまいります。

**議長（大竹勇輝議員）** 沼田議員

〔玉造中学校 沼田議員 自席で発言〕

**沼田有陽議員** ご答弁ありがとうございました。若い世代の観光客を増やす取り組みがたくさんあるのだなと強く感じました。私は、成田市に住んでいて幸せだなと感じることがたくさんあります。例えば、先日開催された祇園祭です。友人たちは、ほぼ全員が祇園祭に参加したと言っていました。その中で最も印象的だったことはごみ拾いの活動があったことです。僕も友人とこの活動に参加しました。当日は、たくさんのごみやたばこの吸い殻などが落ちていて、こんなに汚くて大丈夫なのだろうかと思いながらその日は帰宅しました。翌日、塾に行くために参道を通ると、本当に昨日は祇園祭があったのかと思うくらいきれいに片付けられていました。改めて考えてみると、成田市の施設は隅々まで掃除が行き届いており、きれいで清潔な環境で暮らすことができていることに気が付きました。これは、たくさんの方があってこそだと思っています。これからは、そんな住みよい成田市に貢献してくれている方々の努力に感謝しながら生活していこうと思います。

これで玉造中学校からの質問を終わります。

（午後 3 時 59 分）

**議長（大竹勇輝議員）** これで、全ての代表質問が終了しました。

（午後 3 時 59 分）

---

## 市長の講評

議長（大竹勇輝議員）　ここで、小泉市長より講評をお願いいたします。小泉市長。

〔市長　小泉一成　登壇〕

市長（小泉一成）　中学生議員の皆さん、大変お疲れさまでございました。皆さんからの質問に対し、全ての答弁が終了いたしましたので、私から「講評」を述べさせていただきます。

本日、皆さんからいただいた質問は、成田市が直面している重要な課題をはじめ、市民生活に密着したもの、皆さんの中学校生活に深く関わりのある部活動に関するもの、そして、国際空港を擁している、本市ならではの外国人観光客や航空機の騒音対策、若者の視点に立った質問など、すばらしい、的確な質問であったと思います。

また、堂々と質問・発言している姿は大変立派で、とても感心をいたしました。皆さんが成田市の未来について、一生懸命に考えているという熱意が伝わり、大変うれしく、同時に心強く思っております。それだけに、私や教育長、各部長も全力で答弁をさせていただきました。

皆さんからいただいた貴重な質問や提言は、今後、私がモットーとしております『住んでよし　働いてよし　訪れてよしの生涯を完結できる空の港まち　なりた』の実現に向けて、大いに反映をさせていただき、また、今後の成田市の発展のために役立ててまいりたいと思います。

本日、皆さんは自分の意見を述べるだけでなく、他の中学生の質問や意見にも耳を傾け、市からの様々な答弁も聞いていただき、見聞が広がったことと思います。どうか本日の経験を、これからの学校生活や、今後の人生にいかしていただき、大きく成長されることを期待しております。そして、成田市がより住みやすくなるよう、皆さんと一緒に考えていければ、大変嬉しく思っております。

そして、ぜひ次は市長として、あるいは議員として、または職員として、この議場に帰ってきていただければいいなと期待をしております。

結びにあたりまして、本日は大変お忙しい中、この中学生議会議を傍聴していただきました保護者の皆様、そして、この中学生議会議の開催に協力していただきました学校関係者の皆様、議員各位の皆様方に心から感謝を申し上げまして、中学生議会議の講評といたします。

中学生議員の皆さん、あらためて本日は大変お疲れさまでございました。そして、ありがとうございました。

(午後 4 時 03 分)

---

## 閉会の宣告

議長(大竹勇輝議員) これをもって、今議会議の日程は終了いたしました。

以上をもちまして、「令和 5 年度成田市中学生議会議」を閉会いたします。ご協力ありがとうございました。

(午後 4 時 03 分)

---